

# GAKKAN

Interfaculty Initiative in Information Studies and Graduate School of Interdisciplinary Information Studies, The University of Tokyo



**No. 55**  
2020 AUTUMN

# INDEX

## INTERVIEW ————— 02

教員インタビュー 林香里 教授  
見えない「敵」との戦い—女性やマイノリティの視点をメディアに、そして東京大学に—

## TOPICS ————— 04

学環・学府20周年:2020まで、そして2020から

## NEWS ————— 07

東京大学入学者へのお祝いメッセージ収録  
ドキュメンタリー「ジャパニ〜ネバー! 出稼ぎ村の子どもたち〜」  
東京大学制作展 Extra2020「WHO ZIPS YOU?」  
Radio 5:声のメディアの可能性を探る実践

## PEOPLE ————— 08

着任教員自己紹介

## CONGRATULATIONS ————— 08

学際情報学府学位記授与式/教育部修了証書授与式/学際情報学府入学式・ガイダンス/合格発表

## BOOKS ————— 09

新刊情報

## TIE-UPS ————— 10

国際連携/社会連携

## ADMISSIONS ————— 11

在学者数/入試情報/修了者就職情報/特別奨学金プログラム

## THESES ————— 12

2019年度修士論文・博士論文題目一覧

# 見えない「敵」との戦い

## 女性やマイノリティの視点をメディアに、そして東京大学に — 林 香里 教授

2004年より基幹教員として学環学府を支えてこられた林先生にお話を伺いました。  
メディアとマイノリティ、特に「ジェンダー」という研究テーマに対する姿勢について伺いました。

### — ご研究について教えてください。

私の専門はメディア研究、ジャーナリズム研究です。特に最近では、国際比較の研究に力を入れてきました。メディアやジャーナリズムの内容というのは、各国のメディアの制度やシステムのあり方によってかなりの程度規定されます。そうしたシステムとコンテンツの関係性を比較し、そのなかでどのようなメディア文化が生まれ、利用者たちはどのように情報を摂取しているかについて国際チームを組んで研究しています。

それとともに、日本のジャーナリズムのあり方そのものにも長く関心を持ってきました。ジャーナリズムというのは日本に限らず男性の職業として発展してきました。19世紀の終わりから20世紀前半の大きな戦争で新聞の部数は格段に増えましたし、ラジオも戦時の重要なメディアでした。メディア産業は今日も軍隊用語が飛び交う男性的組織です。そのなかで、女性記者たちがどのように働いてきたのか、女性の視点とは何か、さらにはいわゆる「切った貼った」の速報主義やセンセーショナリズムに焦点を当てた男性的ジャーナリズムとは異なる「＜オンナ・コドモ＞のジャーナリズム」というものがあるべきではないかを「ケアの倫理」という社会思想から論じ、マイノリティとメディアについても考えてきました。

前者の、国際比較の研究は実態の究明、後者のジェンダーやマイノリティに関する研究は理論に基づく規範論、つまりジャーナリズムの建前についての研究です。このふたつは私の中では連動していて、私の研究人生の両軸になっています。

### — 現在、取り組まれている国際比較研究はどのようなものですか？

イスラエル、アルゼンチン、アメリカ、フィンランド、日本の5カ国の研究者で連携して、メディア利用に関するインタビュー調査を進めています。各国100人くらいの人にニュースや情報をどこで読んで、だれと話をしているのか、どんなニュースに興味があるのか、娯楽は何かなどを聞いてきました。とくに最近、ニュースはだいたいプッシュ機能で画面に出てきて、ちらっとだけ見ます。それを「ニュースをチェックする」と言いますよね。だから、ニュースはもうあまり「読



ワシントンDCでの「多文化共生・総合人間学プログラム」研修にて(2016年3月)

む」ものではなくてきています。そういう「ついで見をするニュース(incidental news)」が主流になっていくと、人々の「ジャーナリズム」という営為へのイメージも変化しているのではないかと、さらに政治とジャーナリズムの関係も変化しているのではないかと、などの問いを、各国の状況を比較しながら研究しています。

### — MeDi(共同研究グループ「メディア表現とダイバーシティを抜本的に検討する会」)の研究活動も活発ですね。

MeDiというのは、私のなかでは研究というより活動かな。「いま、メディアはどうあるべきか？」を考えるときに、やはり女性やマイノリティの視点というはすごく重要だと考えています。政府は「一億総活躍」とか言っていますが、女性やマイノリティの視点はまだまだ公共的な場では反映されていない。そういう問題意識を共有する実務家、あるいは一般市民の方たちとイベントをやっています。これは昨年まで続いた博士課程教育リーディングプログラム「多文化共生・統合人間学プログラム」とも連動していて、多文化共生という大きな枠組みにも入っています。シンポジウムをやったりブックトークをしたりして、マイノリティや女性の視点から日本の男性中心のメディア世界について問題提起をしてきたというのがMeDiの活動です。



MeDiによる「第1回メディアと表現について考えるシンポジウム」(2017年5月)

これまで「女性とメディア」というテーマのシンポとなると、私より年上の、しかも女性の方しか来なかった。要するに「改宗した人に宣教する」みたいな、フェミニズムの重要性を分かっている人に「女性の視点って大事ですよ」と言っているような、内輪話みたいになりがちだったんです。ところが、MeDiには小島慶子さん、白河桃子さん、治部れんげさん、浜田敬子さんなど格段に発信力大きい人たちがいる。彼女たちが、たとえばツイッターとかフェイスブックで「イベントをやります！」っていうと、とくに若い層の女性にも男性にもどんどんリーチできるんです。それは私にはできなかった、素晴らしいことだと思っています。

### — 「ジェンダー」というテーマに取り組む姿勢について教えてください。

子どもが生まれたら、まず「男の子でしたか？女の子でしたか？」って聞くでしょ

う。「ジェンダー」というのはそれくらい社会的語りの中で自然化されたもので、実際、この社会をカテゴリー化する基本的な枠組みです。男女のあるべき姿を組み替えたり、男女という二分法に疑問を呈することは、すなわち社会全体のあり方を問うことになる。つまり、とてもラディカルな企みです。他方で、日本の社会には男性優位の価値観が厳然としてあって、男性性を肯定する価値に手を突っ込むことは、既存の秩序を否定することにつながります。こうなると、話のレベルでは「女性の参加はいいね」と言ってくれる人も、具体的な議論になった途端に「やっぱりそれはちょっと過激…」とか「女性にはいい人いないんだよね」みたいな話になって、女性がたくさんのポジションから遠ざけられる。そういう場面をいろいろなところで見てきたし、経験もしてきました。

男性の役割と女性の役割を見直すことは、そういう社会革命みたいな含意があるわけです。これは個人の問題というより、制度に関わること。したがって、「敵」はマッチョでわかりやすいいわゆる「おじさん」たちだけではなく、不透明で見えにくい、構造的差別なのです。東大の男性の先生たちも1人1人はジェントルマン。でも、大学や学問の制度のなかに男性的価値観が入り込んでしまっていて、この部分の変革には時間もエネルギーもかかります。

### — 東京大学全体のダイバーシティ戦略にも関わっていらっしゃいます。

総長特任補佐という役職で国際化とダイバーシティを担当しています。東大の学部生、大学院生たちをどうやって国際化するのか。東大の学部生のいびつな男女比の割合(学部は男女比8:2)をどうするか、が、私に与えられた任務です。どちらも、問題状況が似ています。つまり東大の多様化という課題。東大の学部生は特定の私立中高一貫校出身者の割合が高く、かなり均質的な集団です。しかも、教員も含めて多くの人はこの状態こそが「エリート校」の証だと思っているフシがある。東大は表向きは「女性も外国人も歓迎」なのですが、しかし、女性や外国人のなかでも東大という制度文化に適合する人のみを歓迎していて、自らが変わろうという意思がまだまだ足りない。過去の東大を全部そのままにした上で、女性と留学生を増やそうと言っても無理な注文だと思います。組織文化と風土が変わっていかねばいけないけれども、内実はなかなか変わらない。変わらない。

### — 「ジェンダー」という人間のアイデンティティに関わるテーマを扱うときには、「結局、自分自身の生き方を問わざるを得ない」とも指摘されています。\*

少なくともタテマエでは、研究者という職業は、女性、男性に関係なく専門分野でトップを争うもの。それなのに「女性」という立場に対する社会的抑圧について語るの、自らの弱さを認めるようで、相当のプレッシャーと覚悟が要ります。少なくとも、私はそうだった。だから、これから先、研究者として長いキャリアを歩む30代40代の女性に「なんでジェンダー研究やらないの？」と軽々しく要求することは私にはできません。けれども、先に言ったとおり、ジェンダーというカテゴリーの根源性とその重要性については、忘れないようにしてほしいと思っています。そしてもちろん、この姿勢は、女性に限ったことではありません。

私の場合、30代40代はビクビクしていて、自分は女性である前にあくまでも研

究者だと思いたくて、自分の中の「女」を語りたくなかった。私は41歳でようやく就職できたので、あっという間にいわゆる「シニアの教授」とか言われるような年になっちゃったわけですが、最近では、もうそろそろ、「女」のままで語ってもいいかなと突き抜けちゃったところがあります。そして、この地点でふとふり返ったら、保育園の問題とか、学生や教員の女性比率の問題とか、私が東大に入った2004年の時からほとんど変わっていません。いま、そのことにすごく申し訳ない気持ちがあります。おかげさまで私は東京大学の教員という、特権的なありがたいポジションにいる。そのことはいつも自覚し感謝していて、私のような特権的な人が、世の中の不平等や不条理にも気づかず、あるいは気づいたとしても正直に勇気をもって意見を言わないのだったら、この社会は終わりがかって思うのです。だからもう言いたいことを言おう！と思って昨年末にはMeDiの仲間と『足をどかしてくれませんか』なんていうタイトルで本を出版しました。

### — 学環学府20周年記念「オープンラボウィーク」のキックオフイベント<sup>2</sup>では、「diversity elevates academics」というメッセージが印象に残りました。

メディア研究だけでなく、おそらくあらゆる研究分野では、「あたり前」を疑うことが学問の出発点だと思うのです。たとえば、今進めている国際比較研究でも、日本人とイスラエル人とフィンランド人が持つ「ニュース」のイメージはかなり異なります。国際チームで共同研究をすると、普段何気なく使う言葉についてもすぐに社会科学の議論が始まるんです。あたり前を根本から組み替えていく、つまり「脱構築」作業が必要で、だけどそれは学問にとっては非常に重要なことなんです。セクシュアリティやエスニシティが異なる人たちが集まると、それぞれに世界のものが見方が異なり、解明方法も多様だということをいっぺんに知ることができる。多様な出自や文化をもつ人たちが一緒に学んだり働いたりして、最終的に自らも変化していく—これこそ「認識の発展」と呼ぶんだと、一人でも多くの人たちが実感し納得してこそ、情報学環も東京大学も本格的に変わっていくのだらうと思います。

聞き手：鳥海希世子(特任助教)、安ウンビョル(博士課程)



インタビューに答える林先生(オンライン取材による)

\* 林香里 編著、小島慶子、山本恵子、白河桃子、治部れんげ、浜田敬子、竹下郁子、李美淑、田中東子 著『足をどかしてくれませんか。—メディアは女たちの声を届けているか』(2019年、亜紀書房)  
<sup>2</sup> 2020年6月20日(土)にオンライン上で開催された学環学府20周年記念イベント。学環学府の6つのコースから全コース長と学環長が登壇(林先生は「アジア情報社会学コース」のコース長として参加)した。詳しくは、TOPICS(5ページ)をご覧ください。

学環・学府20周年：

# 2020まで、そして2020から

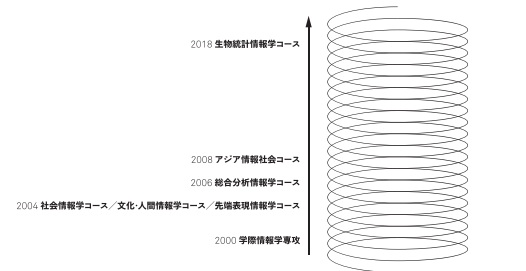
2020年、情報学環・学際情報学府は誕生20周年を迎えました。ここTOPICSでは、20周年に関連するさまざまなイベントや情報を特集します。はじめに20周年記念のロゴの紹介を、次に6月に開催されたオープンラボウィーク・キックオフイベントの様子と10月のホームカミングデーのお知らせを、最後に学環・学府の全メンバーを対象に実施したアンケートの結果「学環って、どんなところ?2020」をお届けします。これまでの20年の足跡を振り返りつつ、これから広がる時間を想像・創造していきましょう。

## この度、学環・学府の20周年を記念して新たなロゴを作成しました。

学環・学府では、2000年の発足以来、社会情報学コース、文化・人間情報学コース、先端表現情報学コース、総合分析情報学コース、アジア情報社会コース、生物統計情報学コースの6つのコースが設立され、重層的かつ多様な発展を遂げてきました。このロゴは、その学環・学府20周年の歴史を「20周の螺旋」と捉え、俯瞰したものです。

また、この20周年のロゴは、学環・学府のニューズレターやパンフレットに用いられている従来の「環」ロゴを踏襲しつつ、あえて対比的なデザインとしています。従来のロゴは力強く「完璧」な環であるのに対して、20周年のロゴは細くいびつな形状をしています。これは、20周年を迎えますますます多様化した学環・学府の構成員1人1人が、それぞれ異なる道を歩みつつも互いに重なり・交わり合うことによって、全体として大きな「環」を描くことを願っているからです。また、螺旋の先端部が閉じていないのは、学環・学府が今後も学際的な人材を広く受け入れることにより、常に新しい環を目指していくという態度を示すためです。

記事：鳴海結也(助教)



デザイナー：伊達亘 監修：寛康明(准教授)、鳴海結也(助教)

## ホームカミングデーのお知らせ

10月開催の「ホームカミングデー」も学環・学府20周年記念イベントの一環として開催されます。今年度は、学府の卒業生である落合陽一さん、李怡然さんをゲストに迎え、ソーシャルディスタンスが求められる現在、そして未来における「学際」のありようについて議論します。

### 東京大学ホームカミングデー 情報学環・学際情報学府20周年記念イベント **ディスタンス時代における「学際」とは**

日時：2020年10月17日(土)17:00～19:00 場所：オンライン

登壇者：落合陽一(筑波大学准教授、2015年学際情報学府博士課程修了)、李 怡然(医科学研究所武藤研究室特任研究員)、渡邊英徳(情報学環教授)

## 学環・学府20周年記念

### 「オープンラボ・ウィーク」キックオフ・イベント開催報告



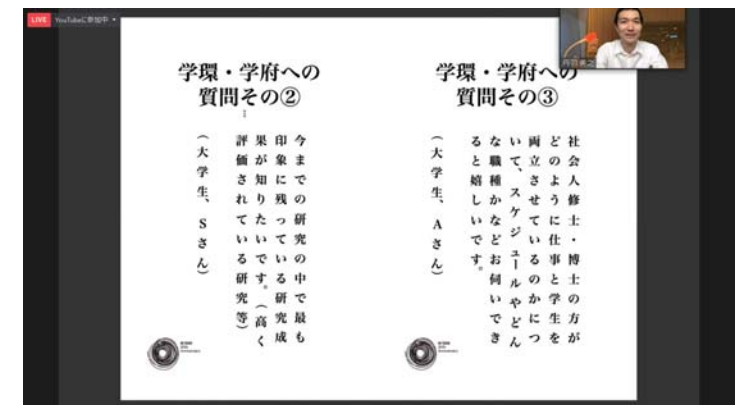
学環・学府の多種多様な研究室を一堂に公開する「オープンラボ・ウィーク」が2020年6月20～27日に開催されました。そのスタートを切るキックオフ・イベントは6月20日午後、ウェビナー形式でオンラインにて開かれました。このイベントには学環長と全6コースのコース長が登場し、最大時で233人(ユニーク視聴者数)が参加しました。

はじめに越塚登学環長からの挨拶がありました。学環・学府が作られた頃の世界中に起きていた情報環境の急速な変化とそれに関わる東京大学の問題意識に触れながら、時代と共に生まれ、歩んできた学環・学府の意義に関して話しました。それを踏まえて、これからの20年に向けて新たなヴィジョンを打ち出していきたいと述べました。

次に各コースの紹介です。まず丹羽美之先生が「社会情報学コース」について、「情報化と共に複雑化していく社会をどう理解していくかを様々な観点から研究するコース」と紹介しました。佐倉統先生は「文化・人間情報学コース」を「知のジャングル」と描写し、文/理の壁に対する問題意識と「縁側」のような中と外を結ぶ領域の重要性について話しました。「先端表現情報学コース」の山中俊治先生は、学環・学府の20周年を象徴するスパイラルのイメージを直接手書きで実演しながら、テクノロジーとアートを結ぶ本コースを言葉通り「表現」してくれました。「総合分析情報学コース」の暦本純一先生は、近年のIT分野の変革に言及しながら、現在の様々な課題を解決するためには、研究が学際になることは必然的だと強調しました。アジア情報社会コース(ITASIA)の林香里先生は、グローバル・アカデミックスタンダードの下で学習できる本コースの長所と「多様性が学問を向上させる」という本コースの意義について英語でスピーチしました。最後に最も若いコース「生物統計情報学コース」の大庭幸治先生は、生命科

学分野の統計専門家を養成する本コースの旨を紹介し、卒業生の就職先といった具体的な情報にも触れました。

後半のトークセッションでは、学府への受験希望者から事前に届いた質問に答えるコーナーが展開されました。「今までの研究の中で最も印象に残っている研究成果」「社会人学生は仕事と学業は両立できるか」「英語の論文執筆など、国際活動を支援するか」などの質問が寄せられました。「今後、学環学府にどのようなしてほしいですか」という最後の質問では、「教員の中にも多様性の拡大が必要」(林先生)、「『とんでもないやつら』を全力サポートしたい」(暦本先生)、「若い人の力が大事…学生主導の場所にしたい」(佐倉先生)「バウハウスのように歴史に残る学校」(山中先生)などなど、多彩でありながらも共通的な指摘とヴィジョンが寄せられました。



記事：鈴木麻記(特任研究員)、安ウンビョル(博士課程)

特別企画 学環20周年記念アンケート

# 学環って、 どんなところ？

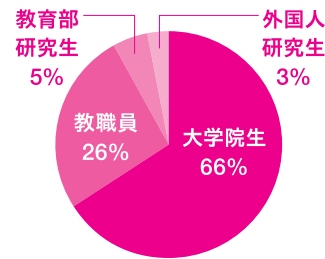
2020

※実施期間:2020.7.31~8.15 調査方法: Googleフォームによるオンライン調査

※2010年のアンケート: ニュースレター31号に掲載。学環・学府ホームページ(学環・学府とは> 紀要・出版物> ニュースレター『GAKKAN』> 既刊一覧)からご覧頂けます。

学環について

Q1. あなたのご所属をお選びください



Q2. 学環の長所を一つ挙げてください

- 1位 人の多様性、研究の学際性  
2位 柔軟性と自由な雰囲気  
(その他) キレッキレなところ / 微かに残る創設時のスピリッツ / 個を尊重できる / 求めればわりと何でも挑戦できる / 東大の中であって東大らしくないところ  
10年前 1位「人・研究の多様性」と、2位「やりたいことができる、拘束が少ない」

Q3. 今の学環に足りないものを一つ挙げてください

- 1位 学環の内・外との交流や連携、協力の機会  
2位 (主に大学院生のための)空間や施設  
3位 まとまり、軸  
(その他) 社会人学生に対する配慮 / 破壊的なチャレンジ / 見やすいポータルサイト / 狂気(≒専門性)、強烈的専門性 / 冒険心と野生の思考 / 厳しさ・厳格さ / 社会的なインパクト  
10年前 1位は同じで、2・3位が「知名度」と「歴史」

Q4. 学環の総合的な満足度を教えてください 平均値:3.65 / 5 10年前 3.685 / 5

研究生活について

Q1. 実は、最近の情報技術の進化にはついていけない



Q2. 実は、未だに人に学環のことをうまく説明ができない



Q3. 最も最先端の研究をしようとするのは？

- 1位 わからない・判断できない  
2位 暦本研究室  
3位 寛研究室  
10年前 1位 暦本研究室

Q4. 最もゼミが楽しそうなのは？

- 1位 わからない・判断できない  
2位 水越研究室  
3位 佐倉研、暦本研、寛研  
10年前 1位 水越研究室

Q5. 最もゼミが怖そうなのは？

- 1位 わからない・判断できない  
2位 林研究室  
3位 北田研究室  
10年前 1位 北田研究室

Q6. 最もお金を持っていそうなのは？

- 1位 わからない・判断できない  
2位 越塚研究室  
3位 中尾研究室、暦本研究室  
10年前 1位 坂村研究室

日常生活について

Q1. 東大で一番

- 居心地の良い場所は？  
1位 総合図書館  
2位 コモンズ  
3位 三郎池  
10年前 コモンズ→(自分の)研究室→三郎池・総合図書館の順

Q2. 本郷でよく食事をするお店を教えてください (コロナ禍以前)

- 1位 学食  
2位 喫茶ルオー、コンビニ  
(その他) 蓬溪閣、瀬佐味亭、スタバ、もり川、美味しい屋、一番餃子、「お弁当族」…  
10年前 マクドナルドが1位

Q4. 学環をひとことで表すと？



Q3. 本郷のオススメの飲み屋を教えてください

- 7人がオススメした「クラフトワークス」を含め、縁(ゆかり)、半、一番餃子、MEGRO、椿山荘、鮎兼、御殿、浅瀬川、明憩、田奈部などの飲み屋の名前が寄せられました。しかしもっとも多かった回答は「普段飲まないのだから」「まだ1回も本郷に行ったことがないので分からない」でした。また、「昔はあったけど廃店した」という回答も4人ありました。  
10年前 白糸→羅針盤→ちどり停の順

## 東京大学入学者への お祝いメッセージ収録

2020年4月7日、令和2年度東京大学入学者へ向けたお祝いメッセージの収録が情報学環メディアスタジオにておこなわれました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本年度の入学式は残念ながら中止となりました。その場で伝えられる予定だった式辞・祝辞は動画配信されることになり、丸一日をかけた撮影が実施されました。

当日は感染防止策のもと、五神総長、太田邦史・教養学部長、星野真弘・理学系研究科長、そして来賓の明石康様(公益財団法人国立京都国際会館 理事長、元 国際連合事務次長)による4つの式辞・祝辞が撮影されました。スタジオ内での撮影と同時に担当職員による原稿チェックが入念に進められ、一方で編集室はアカデミックガウンなどの式服を羽織るための控え室的なスペースとなり、全室がフル活用されました。距離や換気に気を配りながらの収録は朝10時に準備が始まり、夜7時に無事終了しました。

記事: 鳥海希世子(特任助教)



## ドキュメンタリー 「ジャパニ〜ネパール 出稼ぎ村の子どもたち〜」

「ジャパニ〜ネパール 出稼ぎ村の子どもたち〜」が、2020年6月にNHK BS1スペシャル及びNHKワールド・プレミアムで放送されました。この作品は、日本で移民として働くネパール人の親たちとネパールの村に残された子どもたちの暮らし、また、それぞれの思いを映したドキュメンタリーです。物語は9歳のピピシャという少女を中心にストーリーは進んでいきます。彼女の両親が働くために日本へ発ったのは、彼女がまだ3ヶ月の時でした。この作品では、現代社会の問題であるグローバルなコンテキストにおけるトランスナショナルな移住、移民やその家族のありようを、ローカルなコンテキストにおけるリアリティと共に映し出すことを目指しています。学府での私の博士論文と、現研究がベースになっている作品です。NHKワールドオンデマンドで来年の6月まで視聴できます。

ディベシユ・カレル(客員研究員)



## 東京大学制作展 Extra2020「WHO ZIPS YOU?」

2020年7月3日~6日、「東京大学 制作展 Extra2020『WHO ZIPS YOU?』」をインターネット空間で開催しました。東大制作展は、学環学府の授業の一環として学生自らが企画から作品制作までをおこなう展示会です。今回はCOVID-19の影響を踏まえて、インターネット空間のみでの展示会という、これまでにない挑戦となりました。

今回のコンセプトは「WHO ZIPS YOU?」です。「何が不自由をもたらすのだろう」という問いを起点に、「不自由」の意味を考えることから制作は始まりました。会期中は、世界中から1000人以上のアクセスがあっただけでなく、ボイスチャットやSNSを通じて、来場者からさまざまな感想を頂きました。また作品自体も、インターネット空間における他者の存在を示したり、物理世界と組み合わせる表現を模索したりと、オンライン開催ならではの作品が集まりました。

記事: 中條 麟太郎(情報学環教育部)



## Radio 5: 声のメディアの可能性を探る実践

インターネット・ラジオ『Radio 5』(https://medium.com/radio5)という音声メディア実践を行っています。このプロジェクトでは、情報学環の水越伸教授と福岡女学院大学の忠聡太講師を軸に、国内外の仲間とともに録音構成によるストーリーテリングという新しい声のメディアのかたちを作ること、またそれを教材として活用するなど、さまざまに声のメディアの可能性を探っています。

パンデミックの最中も実践を続けています。“Voices: Life Under COVID-19”シリーズは一例で、後日オンライン授業の教材として使用しました。また今年5月に博士号を取得した学府OGのルジラット・ヴィニットボン(ギフト)さんのインタビューもあります。声のメディアならではの研究の記録方法や社会との共有のあり方なども考えながら私たちは実践・研究を続けます。ぜひRadio5をお聴きください。

記事: 神谷説子(博士課程)



着任教員自己紹介



酒井慎一 教授

地震計を使って、ずっと地球の揺れを測ってきました。データには地球の動きを探るための情報がたくさん含まれています。しかし揺れのデータだけでは自然現象がわかったとしても、災害時に人を動かすことは困難です。では、どうしたら人間の行動に結びつく情報になるのでしょうか。人と情報とのかかわりに関する研究を進めていきたいと思っています。



門田幸二 准教授

農学生命科学研究科から流動教員として参りました。遺伝子の働き具合の違いを調べる研究を行っていますが、ノートPCのみで計算の全てが完結する一見不思議な理論屋です。生命科学分野で生み出される大量のデータを効率的に解析する人材を育成する活動にも15年以上携わっています。学環で多くの経験値を獲得し、さらにレベルアップできればと思っています。



飯高隆 教授

地震研究所から異動してきました。これまでの研究は、理学的見地にに基づき、地震が発生する場の研究を行ってきました。情報学環では、様々な背景の研究者の方々と接することによって、研究の視野を広げるとともに、地震災害情報に結び付けた社会に役立つ研究を進めていきたいと考えております。よろしくお願いたします。



名和克郎 教授

東洋文化研究所から流動で参りました。学問的には文化人類学、地域的にはネパールを中心とする南アジア及びヒマラヤ地域が専門です。民族誌的な調査に基づき、民族・カースト、儀礼、言語使用、翻訳、エスノヒストリーなど色々な問題にとり組んできましたが、学環では、これまでの研究を「情報」という切り口で再考出来ればと考えています。



山名 淳 教授

教育学研究科より流動教員としてまいりました。専門は教育哲学・思想史です。最近の関心事はくメモリ・ペダゴジーの構築にあります。学際的なメモリ・スタディーズを基盤として、想起文化や集合的記憶の観点から教育の理論と実践を文化の諸事象との関連で解釈することを試みております。学際性、刺激的です。よろしくお願いたします。



五輪と戦後：  
上演としての東京オリンピック

吉見俊哉 著  
発行年月：2020年4月  
出版社：河出書房新社

1987年に出版した処女作『都市のドラマトゥルギー』（弘文堂）から30年以上を経て、私は大きな螺旋を描きながら出発点に近い場所に戻りつつある。メディア、カルチュラル・スタディーズ、大学、長い歴史を探究しながら、再び上演論的アプローチで都市を深掘りし始めた吉見俊哉はどこに行くのか。本書を読めばそのすべての謎は解き明かされる。（教授：吉見俊哉）



ダーウィン「種の起源」を漫画で読む

チャールズ・ダーウィン 著、マイケル・ケラー 編、ニコル・レジャー・フラー 絵、夏目大 訳、佐倉統 監修  
発行年月：2020年5月  
出版社：いそっぷ社

『種の起源』は進化論の必読基本文献で、出版から150年経った今でも示唆にとむ内容です。しかし、読みにくいのが難点。そこで、内容に忠実に、味わい深いイラストでマンガ仕立てにした本を翻訳しました。進化論のエッセンスを気軽にお楽しみください！ダーウィン以降の補足情報も充実していて、中高生の学習用にもお薦めです。（教授：佐倉統）



日本の  
テレビ・ドキュメンタリー

丹羽美之 著  
発行年月：2020年6月  
出版社：東京大学出版会

『日本の素顔』を作った吉田直哉から、現在では映画監督として活躍する是枝裕和まで、テレビの制作者たちはどのように時代と格闘してきたのでしょうか。新たな表現に挑戦し、テレビの可能性を切り開いてきたのでしょうか。テレビアーカイブに眠る数々のドキュメンタリー番組から、テレビ史、戦後史をたどる試みです。（准教授：丹羽美之）



AIとカラー化した写真でよみがえる  
戦前・戦争

庭田杏珠・渡邊英徳 著  
発行年月：2020年7月  
出版社：光文社

本書には「カラー化」された、戦前から戦後にかけての写真が収録されています。本学学生で広島出身の庭田杏珠さんと2017年から取り組んでいる「記憶の解凍」プロジェクトの、現時点の成果をまとめたものです。本書をきっかけにさまざまな対話が生まれ、過去の貴重な資料と記憶が未来へ継承されることを願っています。（教授：渡邊英徳）



学習環境の  
イノベーション

山内祐平 著  
発行年月：2020年8月  
出版社：東京大学出版会

学習環境のイノベーションは、筆者が情報学環でおよそ20年にわたり研究してきた知見から、学習環境を変革するための理論・事例・実践についてまとめたものである。本書で取り扱っている事例を、オンライン学習と対面学習が有機的に統合され、高度な学びを実現する次世代学習環境の礎として参考にしていただければ幸いである。（教授：山内祐平）

CONGRATULATIONS

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、残念ながら3月の学府・学位記授与式、および教育部研究生・終了証書授与式の対面による式典は中止となりました。また同様に、入学式・ガイダンスや入試説明会も対面での開催は中止となり、オンライン上での開催となりました。

令和元年度大学院学際情報学府学位記授与式

3月23日、越塚学府長より修士課程修了者99名、博士課程修了者4名に対して情報学環・学際情報学府のウェブサイトを通じて祝辞が贈られました。同日、修了代表者2名が安田講堂での式典に参列しました。後日、修了者は分散して本郷キャンパスへ赴き学位記を受け取りました。

令和元年度大学院情報学環教育部研究生修了証書授与式

修了者9名は、分散して本郷キャンパスへ赴き修了証書を受け取りました。

令和2年度大学院学際情報学府入学式・ガイダンス

4月1日、オンライン上で入学式とガイダンスが行われました。越塚学府長より入学者へ祝辞が送られた後、前田専攻長より学府の紹介が行われました。ガイダンスは、動画と資料によるオンデマンド形式で実施されました。



学位記受け取り代表者の姚 依辰さん(右・修士課程代表)と山下聖悟さん(左・博士課程代表)、社会科学研究所前にて撮影

令和3年度学府入試説明会

6月6日、入試説明会が開催されました。500名を超える参加者がオンライン上に集まり、越塚学環・学府長より参加者へ挨拶の後前田専攻長から学環学府の全体の教育研究方針について説明があり、続いて担当教員より夏季募集の入試方法変更や具体的な入試の手続きについて、学務チームから就職・進学情報などについてデータとともに説明がありました。例年実施される各研究室紹介は、6月20～27日に開催された「オープンラボ・ウィーク」に引き継がれました。



合格発表

8月31日、令和3年度修士・博士入試(夏季募集・2021年4月および2020年9月入学)の合格発表がありました。出願者数は修士課程251名、博士課程16名でした。最終合格発表者は表の通りです。

修士課程最終合格者数		博士課程最終合格者数	
社会情報学コース	13		
文化・人間情報学コース	15		
先端表現情報学コース	28	先端表現情報学コース	9
総合分析情報学コース	18	総合分析情報学コース	1
生物統計情報学コース	9		
合計	83	合計	10

## 国際連携

グローバル化のなかで情報学環は、日常の研究・教育活動の国際化を推進しています。最先端の情報学研究における「知の運動体」をめざし、世界の研究者とネットワークを構築するとともに、多様性を尊び、社会に貢献できる人材の育成に携わっています。英語のみで学位が取得できるアジア情報社会コース(ITASIA)では、世界中からの学生が学んでいます。さらに、韓国ソウル大、

台湾国立政治大学をはじめ、パートナーシップを結んでいる諸大学と定期的にシンポジウムなどを開催し、サマースクールも企画しています。また、国際的研究発信のためにWriting Support Deskを常設し、外国語で論文を書く学生や研究者への支援も行っています。

## 主要国際学術交流協定締結先

- (アジア) ●台湾:国立政治大学伝播学院 ●ドイツ:デュースブルク・エッセン大学東アジア研究所・社会学部 ●イタリア:トレント大学 (ヨーロッパ)

## 社会連携

情報学環では、社会に開かれた大学院を目指して多様な社会連携事業に取り組んでいます。外部有識者を顧問に迎えて「情報学環顧問会議」を設置し、社会の意見を問いながら組織運営を行っています。また、新しい情報知の創造を中核コンセプトに、哲学から工学、芸術から政治経済、コンピュータサイエンスからジャーナリズムまで、社会と有機的に連携しながら、多分野を横断する研究

教育活動を展開しています。現代社会がアクチュアルに直面している問題を解決するために、競争的政府予算に基づく大型の研究教育プロジェクトのほか、以下のような講座を設置し、積極的に民間・社会との共同研究に取り込んでいます。

## 現在の社会連携

### 1.総合癌研究国際戦略推進寄付講座 (2015.4~2021.3)

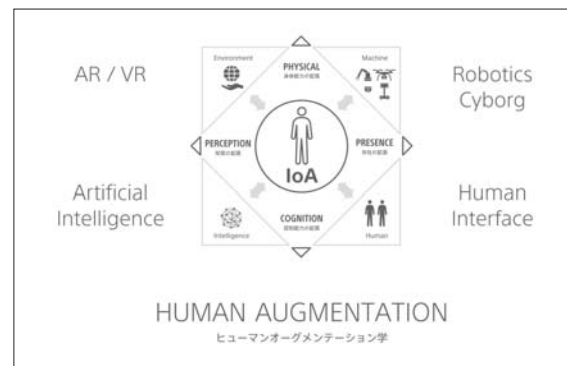
武田薬品工業株式会社、株式会社ヤクルト、小野薬品工業株式会社からの寄付に基づき、アジアにおける癌研究の情報基盤形成を目指す学際研究を進めています。Universal Health Coverage(UHC)の日本とアジアのモデルケースの国際発信を中心に、薬剤開発のための研究ネットワーク構築、アジア域内大学院連携による文理融合型研究基盤の創設、グローバル人材の育成を行っています

### 2.DNP学術電子コンテンツ研究寄付講座 (2015.11~2021.10)

大日本印刷からの寄付に基づき、これまで情報学環で進められてきたデジタル・アーカイブやe-learningに関する諸々の知見を踏まえ、学術的な電子コンテンツの教育・学習活用について実践的な研究開発を行っています。これら活動と並行して、将来的なナショナル・デジタル・アーカイブ構想も見据え、日本の学術系デジタル・アーカイブ構築に向けての連携的役割を果たせるよう努めています。(講座HP:<http://dnp-da.jp/>)

### 3.ヒューマンオーグメンテーション社会連携講座 (2020.8~2023.7)

東京大学大学院情報学環をはじめ、ソニー株式会社、凸版印刷株式会社、京セラ株式会社、株式会社ティアフォーが共同研究機関となり、IoA (Internet of Abilities: 能力のインターネット)の社会基盤の具現化を目指して、人間の能力を総合的に拡張するヒューマンオーグメンテーション(人間拡張)学の研究開発・社会実装を推進します。ソニーと東京大学が2017年から2020年に実施した大学院情報学環「ヒューマンオーグメンテーション学寄付講座(ソニー寄付講座)」の活動を発展させたもので、ワークショップや一般向けシンポジウムなどの企画・運営も実施予定です。(講座HP:<https://humanaugmentation.jp>)



## 【過去の社会連携】

- 角川文化振興財団メディア・コンテンツ研究寄付講座
- 反転学習社会連携講座
- ベネッセ先端教育技術学講座
- 電通コミュニケーション・ダイナミクス寄付講座
- OKIユビキタスサービス学寄付講座
- ユビキタス情報社会基盤学寄付講座
- 情報経済AIソリューション寄付講座
- セキュア情報化社会研究寄付講座
- 「情報技術によるインフラ高度化」社会連携講座(第2期) 以上

## 学際情報学府の在学者数(2020年現在)

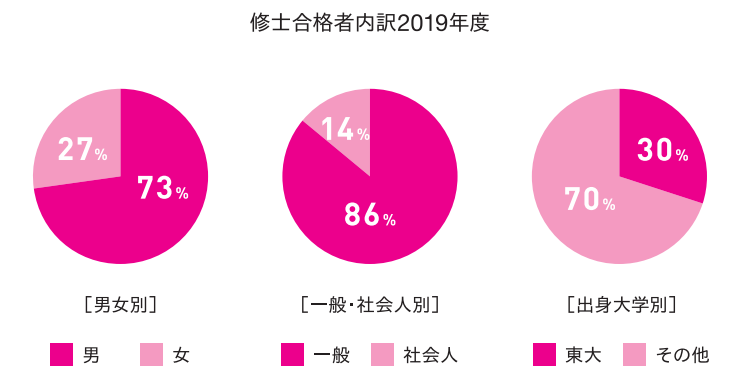
修士:250人	博士:153人
---------	---------

## 2020年度入試情報(募集人員、出願者数、合格者数、入学者数)

[修士課程](志願倍率:3.84倍)

コース名	募集人員	出願者数	合格者数	入学者数
社会情報学コース	17人	49人	19人	18人
文化・人間情報学コース (夏季・冬季募集合算)	24人	98人	24人	23人
先端表現情報学コース	19人	57人	30人	28人
総合分析情報学コース (夏季・冬季募集合算)	17人	86人 15人※1 7人※2	22人 4人※1 2人※2	18人 4人※1 2人※2
生物統計情報学コース	10人	21人	10人	9人
アジア情報社会コース	13人	51人	15人	12人※2
合計(6コース)	100人	384人	126人	114人

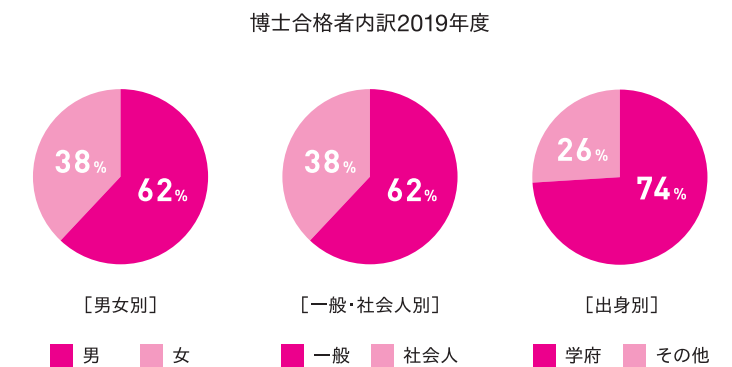
※1 2019年9月入学 ※2 2020年9月入学



[博士課程](志願倍率:1.54倍) 生物統計情報学コースは博士課程募集無し

コース名	募集人員	出願者数	合格者数	入学者数
社会情報学コース	9人	14(8)人	10(5)人	10(5)人
文化・人間情報学コース	11人	20(9)人	9(7)人	8(5)人
先端表現情報学コース	8人	9(2)人	7(2)人	6(2)人
総合分析情報学コース (夏季・冬季募集合算)	8人	10(6)人 3(2)人※1	7(6)人 1(1)人※1	6(6)人 1(1)人※1
アジア情報社会コース	8人	12(5)人	7(5)人	6人(5)※2
合計(5コース)	44人	68(32)人	41(26)人	37(24)人

( )内は内部進学者の数 ※1 2019年9月入学 ※2 2020年9月入学



## 2019年度修了者就職情報

[2019年度修士課程修了者進路]

博士課程進学	30名
・学際情報学府	5名
・学内他研究科	3名
・他大学	0名
就職	63名
その他	16名
合計	109名

[2019年度修士課程修了者就職先一覧]

Procter & Gamble, 宝塚舞台, 中央公論新社, GR Japan, 井之上パブリックリレーションズ, 電通マクロミルインサイト, TBSテレビ, みずほフィナンシャルグループ, 電通国際情報サービス, NHK, Amazon, LINE, NSSLCサービス, 村田製作所, PARCO, 三井物産, 講談社, 電通, NTT DADA, キヤノン, ソニー, 合同会社DMM.com, NTTドコモ, 博報堂, 日立製作所, パナソニック, Freewill, ティアフォー, アーサーディリトルジャパン, 森ビルリクルート, 東日本旅客鉄道, ヤフー, アーティスホールディング, コーエーテックモホールディングス, DeNA, Data Monster Inc., PKSHA Technology, ヴィエムウェア, 10ANTZ, 日立物流, Tata Consultancy Services, 日本IBM, 有限責任監査法人トーマツ, 新潟大学歯学総合病院, 東邦大学医学部 社会医学講座 医療統計学分野 研究補助員, 九州大学病院テクニカルスタッフ, 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 流動研究員, 特許庁 特許審査官, 東京大学 特任研究員, 岡山大学病院 助教など

## 特別奨学金プログラム

学際情報学府には、特別奨学金プログラムがあります。博士課程教育リーディングプログラムは、グローバル社会で活躍する博士を養成するため、修士課程から博士課程後期までの一貫した教育を行うものです。学際情報学府は、東京大学内にあるリーディングプログラムのうち、下記のプログラムと連携しています。詳しくは、学環学府ホームページ(教育>特別奨学金プログラム)をご覧ください。

- 多文化共生・統合人間学プログラム(The Integrated Human Sciences Program for Cultural Diversity, IHS) <http://www.iii.u-tokyo.ac.jp/education/scholarships>

## 2019年度修士論文題目

### 1.社会情報学コース

- マツコ・デラックスの身体と言説
  - 現代日本のテレビにおけるクィア・アイデンティティの構築
- 1990年代日本における雇用多様化をめぐる概念分析
  - 『新時代の「日本的経営」』を事例に
- 対話する教養バラエティ
  - NHK『爆笑問題のニッポンの教養』を事例に
- テレビの選挙報道における「実質的公平性」の研究
  - 2019年参議院選挙を事例として
- 医療情報と同意モデル型の個人情報保護の不適合
  - センシティブ情報の公益性
- 原子力発電所の立地・周辺地域における住民の情報行動とリスク認知に関する研究
- 差異を問題化する／しない方法
  - 戦後日本における「混血」の概念分析
- 大学生Twitter、Instagram利用者の性格特性、心理傾向等に関する社会心理的分析
- なぜ、アニメ聖地巡礼者は繰り返し訪れるのか？
  - 「巡礼者」の心理傾向・動機・経験に着目して
- Feeling cosmopolitanism in mediated discourses: the case of the Ukraine crisis in Japan
  - メディア言説の移ろいやすいコスモポリタニズム
  - 日本におけるウクライナ危機を事例に
- 日本のテレビニュースにおける「政局報道」「政策報道」の検証
  - 2019年参議院議員選挙を事例として
- 観光促進におけるソーシャルメディアデータの活用可能性
- ICTの導入が雇用の変化に与える影響
- 平成30年7月豪雨の警戒期におけるテレビ報道
- 〈腐女子〉もく〈夢〉を見ているのか？
  - 中国の腐女子・夢女子に対するインタビュー調査を通じて
- LINE Effect(ラインエフェクト)
  - メッセージングアプリと学力・作動記憶低下の関係
- 高レベル放射性廃棄物処分の討議過程に関する研究
- 絵文字からみるビジュアル時代の電子的コミュニケーション
  - 「スマイラーマークは本当に『楽しい』か？
- Technological Trajectory Analysis on Patent Citation Networks: Examining the Technological Evolution of Computer Graphic Processing Systems
  - 特許引用ネットワークの技術的軌跡分析
  - コンピュータグラフィック処理システムの技術的進化

### 2.文化・人間情報学コース

- プレゼンテーション・エキスパートのプレゼンテーション創造過程の解明
  - KJ法を用いた質的分析を通じて
- 地域から見た大型科学
  - 国際リニアコライダー計画のエスノグラフィ
- 戦後沖縄におけるアメリカの文化政策と琉球回帰
- アルゴリズムは道徳的に悪質な差別を行うことができるか？
  - COMPAS事例からの分析
- 空港とはいかなる場所か？
  - モビリティと国家
- 学校外時間を使った理工系ワークショップのデザインと評価
  - 女子の理工系ステレオタイプに着目したロールプレイプログラム
- EFLでの会話を促進する事前学習に関する研究
- 再起するアナログレコード
  - 脱機能化以降の音楽メディアの一形態
- 他者作品の推敲による小説創作の促進
- 青少年の身体活動量および生活環境と健康状態の関連
  - 運動強度を考慮した検討

- アイトラッカーを用いたマルチモーダルなオンライン学習教材の研究
- レビュー文書における特徴語と「いいね!」に基づく評価情報の抽出
  - 戦争映画の日本語レビューを例として
- 演劇訓練における俳優間コミュニケーションの検討
- ICTを用いた英語個別学習指導に関するデザイン研究
  - 学習意欲に着目して
- 韓国ナショナリズムのメディア政治学
  - 金大中・盧武鉉政権期の雑誌メディアを中心に
- 文化としての映画予告編
  - 『君の名は。』『グリーン・ブック』の日中米予告編を素材とするテキスト分析
- 「都市計画」の歴史社会学
  - 明治・大正期東京の都市をめぐる理解に着目して
- 擬態するポートレート
  - 肖像写真と風景写真の可逆変換体験によるプライバシー観の変化の表現
- 日本精神を醸成する科学教育
  - 1930年代中等教育の「一般理科」「応用理科」と「理化学」「博物学」教師
- You Always Have a "Choice": A Relevance-theoretic Account of English "Nativeness" by Evidences from Reading Figurative Language
  - 関連性理論から見る英語のネイティブネスについて
  - 修辞の読み理解における「選択」を中心に
- 眼と身体運動の協調ダイナミクス
- 『グラフィック』の視覚表現
  - 1910年前後のグラフ雑誌の変遷から

### 3.先端表現情報学コース

- 変形VRコントローラによる知覚モデルに基づいた物体形状の提示に関する研究
- Unsupervised Out-of-Distribution Detection for Deep Learning on Real-World Data
  - 実世界データを用いる深層学習のための教師なし分布外検知
- 力学的な釣り合いによる生物的な動きの表現
- Bubble-Pixels
  - 気泡を操作するインタラクティブ水中ディスプレイの設計と実装
- 感覚・運動機能を微小スケールへ拡張する指先装着型デバイス
- TRAVRSE
  - 安全な「歩きVR」を支援する空間提示システム
- 三角形パッチ表現に基づく深層学習を用いた単眼奥行き推定
- “道具の暇”の提案
  - 生物らしく振舞う道具のデザイン
- 食習慣理解に向けた大規模レシピを用いた食事記録の解析
- 映画を用いた英単語学習における字幕の提示方法の研究
- 陸上競技における下腿義足ソケットの力学的特性に関する研究
- 等身大ヒューマノイドにおける空気ダンパ衝撃吸収外装を用いた受身動作に関する研究
- ダイナミクス学習に基づく空気圧バドミントンロボットアームのスイング制御
- アンビエントサイネージによるベクションを用いた歩行者の行動誘発
- 三人称視点での自己アバタ操作を用いたself-distancingの研究
- Simultaneous Estimation of 3D Object Articulation and Segmentation using Hand Motion
  - 手の動きを用いた三次元物体の関節構造と領域分割の同時推定
- 店舗環境における商品の配置・外観状態認識に基づく
  - 陳列作業ロボットシステムに関する研究
- 英語でのSkypeグループビデオ通話における自動生成字幕による非母語話者の支援
- 鉄道車両内における乗客の周辺視野からの視覚的情報受容に関する研究
- 対称ミラー構造を用いた再帰透過型テーパートトップ空中像ディスプレイ
- 食関連行動を反映した箱庭ゲームによるコミュニケーション誘発

### 4.総合分析情報学コース

- 視点追跡型網膜投影立体視ディスプレイに関する研究
- 感情の過剰な読み込みに関する実験的検討

- Proposal of parking solution using parking occupancy data and machine learning algorithm
  - 駐車場稼働率データおよび機械学習アルゴリズムを用いた駐車問題解決に関する研究
- Earthquake Magnitude Prediction with Seismic Nucleation Phase based on Machine Learning
  - 初期破壊の機械学習による地震規模予測
- 共有VR空間での身体動作提示を用いた遠隔幻肢痛治療システムに関する研究
- Informative and Interpretable Feature Extraction in Deep Reinforcement Learning
  - 深層強化学習における効果的かつ解釈可能な特徴抽出手法の研究
- スタークラフトIIのミニゲームにおけるマルチタスク強化学習
- Research on Edge Computing System With Control and User Plane Separation(CUPS) for Next Generation Mobile Networking
  - 次世代移動通信におけるCUPSを利用するエッジコンピューティングシステムの研究
- 深層学習を用いた体外離脱視点映像生成に関する研究
- Smart Greenhouse System
  - IoTと機械学習を用いた新規就農サポートシステムに関する研究
- UAVによる自律追従型泳者撮影システムの研究
- 会議室レイアウト自動生成プラットフォームの構築と有効性検証
- Research on High-Precision Zero-Rating Architecture for Mobile Networking
  - 移動通信のための高精度ゼロ・レーティングアーキテクチャの研究
- 深層学習によるクライオ電子顕微鏡法単粒子解析の画像収集効率化
- Earthquake Forecasting with Machine Learning
  - 機械学習による地震活動予測
- Research on Next Generation Surveillance System Architecture Through Edge and Cloud Computing
  - エッジ・クラウドコンピューティングを利用する次世代遠隔監視システムの研究

### 5.アジア情報社会コース (ITASIA)

- Are WHO Media Guidelines for Responsible Suicide Reporting Effective in Japan?: Analyzing Seven Cases of Youth Suicide Reports in Three Major Japanese Newspapers
- Fascination or Discrimination: The 'Occidental' Accent in Japanese TV Commercials
- Trust in Sharing Economy: An Empirical Study on Buyers' Trust and Purchase Willingness on Mobile Flea Market Applications
- Privacy Rules in Online Communication: An Analysis of Privacy Policy Statements of Websites in Chinese Societies
- Re-imagining Identity in Hong Kong: The Construction of "Hong Kong Nation"

### 6.生物統計情報学コース

- 統計学的に有意な結果が示されなかった非劣性試験のデザイン及び結果解釈に関するシステマティックレビュー
- 小児血液がん診断前後の患者家族の健康アウトカム
  - 自己対照ケースシリーズによる検討
- 制限付き平均生存時間の推定手法間の性能比較
- A cluster-based basket trial design in oncology
  - バスケット試験におけるクラスタリングに基づく階層ベイズモデルアプローチ
- 糖尿病性腎症発症に対する競合リスクを考慮した
  - Points-based risk-scoring systemの構築と評価
- バスケット型臨床試験における階層ベイズモデルの事前分布選択に関する性能比較研究
- 経時反復測定を伴う臨床研究における隠れセミマルコフモデル
- レセプトデータベースを用いた糖尿病患者における
  - 低血糖の発症に関する予測因子の検討
- 進行・再発乳がん患者におけるquality of lifeと
  - 抗がん剤治療の中止・休薬および予後との関連

## 2019年度博士論文題目

- 映像・情動・身体
  - 情動的観客とハリウッドの物語映画
- 現代美術家による作品コンセプトの生成プロセスの解明
- Effect of In-Vehicle Traffic Signals on Driving Behaviors
  - 車内交通信号が運転行動に与える効果
- The Social Consequences of Alphabet Reform: Post-coloniality and the Language Policies in Post-Soviet Uzbekistan
  - アルファベット改革の社会的帰結
  - 脱ソビエト下のウズベキスタンにおけるポストコロナリアル性と言語政策
- 乳児の独立歩行の発達の生態学的研究
  - 移動を含む行為の発達と生活環境の資源
- Indoor Mobility Enhancement of Smart Building
  - スマートビルディングにおける屋内モビリティの強化
- 読書装置と知のメディア史
  - 近代日本における書物をめぐる実践
- The process of prosocial behavior between players/characters in digital games: A multidimensional approach to the situational context and gameplay
  - デジタルゲームにおけるプレイヤー／キャラクター間の向社会的行動のプロセス
  - 多次的観点からみるゲーム内文脈とゲームプレイヤー
- 倫理と創造との相克
  - 和辻哲郎・西田幾多郎・三木清における主体・環境論
- 芸術と猥褻をめぐる裁判の法社会学
- Mobile Edge Computingを用いた遠隔車両制御プラットフォーム
- 新規事業における中堅管理職の経験学習
  - 経営人材育成に対する学習論的アプローチ
- Fluid Measurement using Optical Anisotropy
  - 光学異方性を用いた流体計測技術に関する研究
- 自治体経営と政策評価
  - 現場発のボトムアップ型改革の可能性

### あとがき

今号から、「あとがき」を担当することになりました。今回はいつもにも増して、大変盛りだくさんの内容ですが、とくに「学環・学環20周年特集」、編集部も気合を入れて作成しています。時代の変化と共に、学環・学環も大きく変化してきたことでしょう。アンケートを見ても、やはり、多様性・学際性・自由さは昔から変わらないのですね。今の時代、「自由」であることは、簡単に見えてとても難しく、なおかつ責任も伴います。学環・学環が自由さと同時に、多様性に対する寛容と良識を兼ね備えた、学際的な場所であり続けられるよう、これからも見守ってまいりますね。(岡美穂子)

GAKKAN 55 2020.10  
 東京大学大学院 情報学環・学際情報学環  
 Interfaculty Initiative in Information Studies  
 and Graduate School of Interdisciplinary Information Studies  
 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 mail: news@i3i.u-tokyo.ac.jp

編集委員:安ウンビョル、岡美穂子、鈴木麻記、鳥海希世子、デイビッド・ビュースト、福嶋政期  
 デザイン:MARUYAMA DESIGN 丸山智也



<http://www.iii.u-tokyo.ac.jp>